

神戸市の市民花壇活動の推進方策に関する提案

兵庫県立大学大学院 緑環境景観マネジメント研究科
松岡 勇希

1. 背景と目的

本研究で対象とする市民花壇とは、神戸市においては「市民が、公園、街路、広場や空地などで自主的に設置、育成、管理を行う一定の要件を満たした花壇」とされる。同市に市民花壇として認定された花壇は729カ所存在し（2015年3月31日時点）、育成管理費用の一部助成と年3回の花苗配布を受けることが出来る（神戸市建設局公園部管理課、<http://www.city.kobe.lg.jp/life/town/flower/kadan/planter.html>、2016年1月参照）。

市民花壇活動に関する既往研究には「市民の目的意識の内容が明確でない場合、地域貢献活動に対する負担感から活動縮小に陥る可能性がある」（Hirata and Cheng 2004）や「啓発、人材育成、花苗育成のための施設等の完備等、ソフト・ハード両面からの充実が望まれる」（林・保久良 2009）といった報告があるが、推進方策についての実践的試行に関する研究はまだない。ここで、本研究は市民花壇活動における現状を調査し、課題を整理することで推進方策を探り、具体的な提案を実践的に試行し検証することを目的とした。

2. 方法

2.1 現地調査

2015年6月19日に神戸市による垂水区の市民花壇の予備審査に同行し、市民花壇コンクールへ応募のあった垂水区内の全ての市民花壇（35カ所）を視察した。

2.2 ヒアリング調査

ヒアリング調査は2015年3月20日に区内の市民花壇の管理責任者である「垂水建設事務所」、2015年4月8日に総合的な花や緑に関する活動を推進する拠点である「花と緑のまち推進センター」、2015年4月8日に市民のネットワークグループである「花みどり市民ネットワーク」へ赴き、現状や今後の展望を聴取した。

2.3 アンケート調査

アンケート調査は神戸市内の市民花壇を管理している各団体の代表者703名を対象に行った。アンケート用紙を2015年8月5日より花と緑のまち推進センターを通じて各団体の代表者へ郵送し、同月末日を締め切りとした。

2.4 推進方策の提案とその実践

現状調査の結果をもとに得られた課題を整理し、推進方策の方針を定め、定めた方針に基づいて提案を行い実践的に試行した。

3. 結果

3.1 現地調査

現地調査では、コンクール受賞花壇を含め活発な活動のある花壇が見られた。名誉花壇である「清水公園花壇」では、フェンスの奥のスペースで種子から花苗を育成している様子が確認でき(図-1),神戸市からの配布苗以外にも多種類の花苗が植栽されていた。また、最優秀賞を受賞した「まいこ花壇」では、トレリスの裏の隠れたスペースに管理用の道具を保管していた(図-2)。このように、活発な活動のある花壇ではスペースを活用しバックヤードを設けているという、所見が得られた。

3.2 ヒアリング調査

垂水建設事務所では、高齢化が進行し、また世代間のつながりがないために活動が縮小している団体が多いという現状を聴取した。自治会や婦人会といった、より大きな母体を備えた団体は、活動の継続可能性が高いということだったが、花壇活動に対するモチベーションはそれら母体の動向に左右されるとのことだった。

花と緑のまち推進センターでは、市内の市民花壇の数は廃止届と新規届の提出数が同数程度であるため均衡している、という現状を聴取した。また、バックヤードの整備や、資材の提供の拡充などのハード面の整備は予算や管理の責任上困難であるとのことだった。

花みどり市民ネットワークでは、既存の団体に新規の個人が参入するという事はあまりないという現状が聴取でき、活動の推進のためには既存の団体を維持するよりも新規の団体の参入を促すことが有効だろう、という意見が得られた。また、今後のことを考えると、新しい団体や制度にいかにより更新していくかが重要であり、そのためにはインターネットの活用など新しいシステムの構築が欠かせないだろう、という意見だった。

3.3 アンケート調査

計 357 団体の代表者から回答があり、回答率は 50.9%となった。アンケート調査の結果を以下に示す。

団体の活動歴について見ると活動歴の長い団体が多く、活動歴が 16 年以上の団体が 115 団体、11~15 年の団体が 91 団体、6~10 年の団体が 76 団体、1~5 年の団体が 72 団体となった(有効回答数 $n = 354$)。また、メンバーの主な年齢層については、高齢の人ほど多いという回答結果となった。1 団体につき 2 つまで回答可として調査したところ、70 代以上が 212 団体、60 代が 203 団体、50 代が 50 団体、40 代が 38 団体、30 代という回答が 23 団体からあった(有効回答数 $n = 356$)。

市民花壇にあれば良いと思うものについて調査すると、土や肥料などの配布(248 団体)、多様な花苗の配布(210 団体)という資材の充実化を求める回答が多かった。また、それ



図-1 清水公園花壇

図-2 まいこ花壇

らに次いで、講習会や研修（76 団体）が多く、さらに順に、道具を保管するスペース（58 団体）、情報交換や交流会（34 団体）、花苗を育てるスペース（33 団体）、特になし（25 団体）、その他（15 団体）、という結果となった（有効回答数 $n = 342$ ，複数回答可とした）。

パソコン等をどの程度利用しているか調査すると、インターネットで情報を検索するという団体が 84 団体、書類を作成するという団体が 84 団体、メールをするという団体が 61 団体で、SNS やブログを利用しているという団体は 36 団体だった。また、上記のうちいずれか一つでも利用するという団体は 158 団体だった。また、その他と回答した団体は 25 団体だった（有効回答数 $n=304$ ，複数回答可とした）。

自由意見欄を 141 団体から得た。内容を分類すると、高齢化など団体についての課題（36 件）が最も多く、そのうち 17 件が後継者や新規参加者を希望した。次いで、記述の多かったものから順に、活動の喜びなど（23 件）、配布苗についての要望（17 件）、花と緑のまち推進センターについて（17 件）、周囲の樹木など花壇の環境について（11 件）、周囲の人のマナー等について（8 件）、助成金について（6 件）、土や肥料など資材への要望（6 件）、パソコンなどの利用について（5 件）、講習会や交流会について（4 件）、その他（19 件）と分類された（1 つの記述が複数の分類に当てはまるものもあった。）

3.4 推進方策の提案とその実践

3.4.1 推進方策の方針

現状調査の結果をふまえて、課題解決に向けた推進方策の方針を定めた。花と緑のまち推進センターへのヒアリング結果よりハード面の整備は困難、かつ「花みどり工房」のような市民による自主的な花苗育成活動の推進も困難とのことだったので、本研究ではソフト面の整備に焦点を当て、アンケート調査の結果から希望の見られた「講習会」を実施した。

講習会の内容としては、従来型の花みどりの技術に関する内容に加え、新たな取り組みとしてヒアリング結果やアンケートの自由意見欄より必要性のうかがえた、既存団体の活動の推進と新規参加の促進のための情報入手および発信に関する内容について行った。

3.4.2 情報の入手および発信に関する講習会

2015 年 12 月 8 日に講習会を実施し、40 名の参加者を得た。講習会では情報入手および発信のツールとして後述の「市民花壇マップ」と「市民花壇ブログ」について紹介をした。

市民花壇マップは、講習会に先駆けて、花と緑のまち推進センターより入手したデータを基に作成した。市民花壇ブログについては、あらかじめ東灘区の市民花壇である松林街園の管理者と打ち合わせの上でブログを作成し（<http://blogs.yahoo.co.jp/matubayasigaien>）、それをサンプルとして講習会で紹介した。講習会後にはアンケートを行い、講習会についての評価を得たほか、ブログを作成する意欲およびブログを作成することに期待する効果について調査した。

3.4.3 市民花壇マップ

市民花壇マップは市民花壇の存在を広く発信するためのツールとして提案した。同マップは市民花壇コンクールにおける受賞花壇について Google MAP(地図データ©2016 Google, ZENRIN) を活用し 1 枚の地図上に網羅的に、各受賞花壇の詳細な位置情報のほか、花壇

の名前，管理団体名，当年度における賞の名前，写真（1枚ずつ）を掲載した（図-3）。

3.4.4 市民花壇ブログ

市民花壇ブログを花壇の管理者のみが把握する詳細な情報を充実化させるためのツールとして提案した。市民花壇の管理者がブログを更新することで，市民花壇を実際に管理している様子や，四季を通じた花壇の様子といった，詳細な情報を発信することができる。講習会後のアンケートにおいてブログの作成を希望した参加者のうち2名を抽出し，後日詳細な説明とともに著者と共同でそれぞれの花壇のブログを作成した。

3.5 推進方策の検証

3.5.1 市民花壇マップやブログの検証

市民花壇マップの継続的な更新は，その担い手にかかる負担を軽減させることを考えると，限られた情報しか掲載することができない。一方で，ブログは各市民花壇管理団体で自身の花壇に関する情報を詳細に，また継続的に発信することができる。

3.5.2 情報の発信のための手法の紹介についての検証

講習会後のアンケートは38名から回答があった。本講習会への参加者のパソコンや携帯電話等の所持状況は，パソコンや携帯電話，スマートフォン等を所持している参加者が34名で，いずれも所持していないという参加者が3名であった（有効回答数 $n=37$ ，複数回答可とした）。パソコン等の利用状況については，「インターネットで情報を検索する」という参加者が24名，「書類を作成する」という参加者は14名，「メールをする」という参加者は25名で，「SNSやブログを利用している」という参加者は7名だった。また，上記のうちの「何らかの用途で利用している」という参加者は29名だった。（有効回答数 $n=37$ ，複数回答可とした）。

本講習会について情報の入手や発信に関する内容で，最も参加者からの興味があったものは「市民花壇マップの紹介」（15名）で，次いで「インターネットによる情報発信」（11名）であった。それらに次いで順に，「インターネットによる情報入手」（8名），「紙媒体等による情報入手」（3名），「その他」（3名），「紙媒体等による情報発信」（2名），といった内容に興味が見られた（有効回答数 $n=26$ ，複数回答可とした）。



図-3 市民花壇マップのイメージ（地図データ©2016 Google, ZENRIN）

また、自由意見を20名から得た。その内容を分類すると「情報発信に興味を持った」が5件、「インターネットやパソコンの利用には抵抗がある」が4件、「インターネットやパソコンについて全体的に興味を持った」が3件、「情報発信は難しいが、情報入手には興味を持った」が3件、「次の開催を希望する」が2件、「市民花壇マップに興味を持った」が1件、「その他」が3件となった。

ブログの作成への希望を調査すると、4名が「ブログを作成してみたい」とし、6名が「何らかのサポートがあればブログを作成してみたい」と回答した(有効回答数 $n = 24$)。さらに、ブログの作成に期待する効果としては、「より多くの人に花壇を見てもらえる」(5名)、「活動に新たに協力してくれる人が現れる」(4名)、「花壇に関するコメントや意見がもらえる」(3名)、「ブログを通じて交流ができる」(3名)、「花壇を家族や知人に知らせることができる」(2名)、といった効果が期待された(有効回答数 $n = 10$, 複数回答可)。

4. 考察

4.1 市民花壇ブログおよびマップに関する考察

講習会を開催することで、ブログの作成など情報発信について興味を持つ参加者が見られた。また、ブログを作成することには、新規参入の促進などの効果が期待された。講習会には継続的な開催を望む意見も見られ、ブログの作成のためのサポートを求める意見も多かった。

市民花壇マップについては継続的な更新が必要となるが、掲載する情報の量によってそれらの作業は煩雑化する。また、市民花壇マップは、今後存在をアピールする必要がある。

著者のサポートで作成したブログには、何度かの更新がなされているものもあり、今後自立かつ継続的な更新がなされる可能性があると考えられた。更新されたブログ記事に対して、花壇を賞賛する内容のコメントもあり、ブログの情報発信機能が果たされているといえる(図-4)。しかしながら、ブログへのアクセス数やコメント数はまだ多くなく、今後はブログへのアクセス数を増やすことが課題となる。



図-4 作成した市民花壇ブログとそれに対するコメント

(http://blogs.yahoo.co.jp/hanae_family)

4.2 今後の展望

市民花壇活動に参加する主な層は高齢者が多く、インターネット全般の活用についてはまだ浸透はしていないが、これらの活用は有効だと考えられた。本研究で扱ったツールの活用により市民花壇活動をより一層活性化させるためには、それらのツールに対し様々な立場から取り組まれる必要があると考えられる。

市民花壇マップおよびブログの存在のアピールのためには、花と緑のまち推進センターのホームページや神戸市の様々な情報発信とリンクさせるような仕組み作りが必要になるだろう。また、市民花壇マップの継続的な更新にかかる課題解決のために、市民花壇の詳細な情報について、情報発信を市民も協働でできる仕組みを作ることが求められると考えられる。具体的には、市民花壇マップと市民花壇ブログをリンクさせることで、市民の手でより詳細な情報発信が可能となる。さらに、今後のインターネットの活用の推進のためには、実際に市民花壇管理活動をし、ブログ等による情報発信を行っている市民が活躍し、市民同士がサポートしあうことも望ましいと考えられる。

このような仕組みを作り、情報発信ツールを組み合わせることは、広くかつ深く市民花壇に関する情報の発信を可能とし、潜在的に市民花壇へ興味を抱いている層の花壇活動への新規参入を促す方策の一つとして有効であると考えられる。

本研究では市民花壇管理活動について、ソフト面の整備に焦点を当てた。しかし、整備が困難と言われたハード面についても、制度を見直したり予算を確保したりすることで整備が進められるべきと考えられる。

引用文献

林 まゆみ・保久良 真澄 (2009) 持続可能な花壇作りへの市民参加：兵庫県立淡路島公園を事例として(技術報告編). 造園技術報告集 (5), 134-139

Hirata, F., and Cheng, S. (2004) Comprehensive study of Community gardens in San Francisco and Rental farms / Community flower beds in Kobe city. Proceedings of 2004 IFPRA World Congress in Hamamatsu. Hamamatsu, Japan, September 2004 (20th IFPRA World Congress Organizing Committee) (CD-ROM) ,8-B-6.